

減圧障害治療後の ダイビング復帰プログラム

減圧症治療後のダイビングへの復帰。これまではダイビングプロフィールなどの具体的な指導が綿密にはなされていないのが現状でした。この状況をよりよいものにするために、減圧障害の専門医・山見信夫先生と、オフィス西村代表のインストラクター西村周さんが協力して、減圧障害治療後のダイビング復帰プログラムを作成しました。



東京医科歯科大学助教授
山見信夫先生



オフィス西村代表
ダイビングインストラクター
西村周氏

このプログラムが生まれた背景

減圧症治療後、ダイビングに復帰したい。そのような場合、これまでは専門医が症状の重篤度によって、完治後3カ月、あるいは6カ月といった期間をあげ、水深10mまで、というような指導していましたが、ダイビングプロフィールなどの具体的な指導が綿密にはなされていないのが現状でした。このような状況をそのままにしておくのは、よくないと考えた減圧障害の専門医・山見信夫先生にオフィス西村代表のインストラクター西村周氏が協力。減圧障害治療後のダイビング復帰プログラムの原案を作成しました。7月の終わりに原案ができ、現在はテスト的に運用して、プログラムの安全性を確認中。安全性の確認とシステムの整備をすすめつつ、普及を広げていこうと考えています。

このプロフィールの適用を受けるには

このプログラムはまだテスト段階なので、すぐに適用を受けることはできません。受け入れ体制の整備も、これからといったところです。例えば、減圧症治療後のダイバーを受け入れるに当たって、どんなガイドやインストラクターでも可能、というわけではありませんが、減圧症について深い知識を持つていえることが必要不可欠です。また、一度減圧症が発症すると再発しやすい傾向があるので、酸素供給が可能な環境でないと、安心して潜水できません。現在はまだテストケースなので、山見先生の診療後、西村周氏の地元である伊東市で運用することを考えています。伊東市から伊豆半島、そして日本全国へ普及させていきたい、と考えています。

復帰プログラムのアウトライン

復帰プログラム実施業者

ダイビングサービス

プログラム実施管理者の条件

- 現役ダイビングインストラクター
- DAN酸素インストラクターかDAN酸素インストラクタートレーナー
- ① 参加希望者の書類確認 実施日の確定
- ② 実施プログラムコースの確認
- ③ 診断書、健康診断書の受け取り(コピー可)
- ④ 申込書
- ⑤ 確認事項のチェック
- ⑥ 選択されたプログラムに準じて実施



開催時に準備しなければならない器材
(万が一に備えて)

- ① 酸素タンク
30分間供給できる量が望ましい
- ② 酸素供給用レギュレータ

復帰プログラム参加希望者

減圧症治療後、ダイビング復帰を望むダイバー

復帰プログラム参加の前提条件

- ① DAN会員であること
- ② 医師の診断書の提示
治療により症状消失後、医師の指示する期間を経過した者
- ③ 再発のリスクについて認識していること
書式へのサイン
- ④ 発症時のダイビングプロフィールの提示ができること
- ⑤ 1年以内の最新の健康診断書を提出すること



担当医師

- ① 復帰プログラムへの参加に必要な書類の作成
診断書の記入
- ② 復帰プログラム実施業者リストの配布
- ③ 復帰プログラムの選択についてのアドバイス

復帰プログラムの内容

ステップ12まであるスタンダードコースと、それを短縮し、ステップ6で復帰するクイックコースの2コースがあります。
また、飛行機の搭乗や移動の高度についての指示もあります。

◆スタンダードコース ダイブプラン

	1本目最大水深/滞底時間	RG	潜水後休息時間	RG	2本目最大水深/滞底時間	RG
ステップ1	-10m/20分	C	4時間			
ステップ2	-15m/20分	D	4時間			
ステップ3	-10m/25分	C	2時間	B	-10m/20分	D
ステップ4	-15m/15分	C	2時間	B	-10m/20分	D
ステップ5	-15m/20分	D	2時間	C	-10m/20分	E
ステップ6	-20m/15分	D	2時間	C	-10m/20分	E
ステップ7	-20m/20分	E	2時間	C	-10m/20分	E
ステップ8	-25m/10分	C	2時間	C	-10m/20分	E
ステップ9	-25m/15分	E	2時間	C	-15m/15分	F
ステップ10	-25m/20分	E	2時間	D	-10m/20分	F
ステップ11	-25m/15分	E	2時間	C	-15m/15分	F
ステップ12	-25m/20分	F	2時間30分	C	-15m/20分	F

* 各ステップの間は全て1週間以上あける

* ダイブテーブルはUS NAVYを使用

目的

減圧症等の高気圧酸素治療を受けた患者が、治療終了後にダイビング活動に復帰するためのサポートプログラムである。

対象

減圧症等の治療後、担当医からダイビング活動再開許可を受けた者で、症状消失後6カ月など指定された期間が経過した者。そして、ダイビング活動復帰プログラムへの参加を希望する者。

プログラム参加条件

- ・復帰プログラム参加希望者
- ・DAN会員に限ります。

必要な書類

- ・DAN会員カード
- ・Cカード
- ・減圧症治療担当医の診断書
- ・1年以内の健康診断書
- ・その他、復帰プログラム専用書類

復帰プログラム開催者

現役のインストラクターで、DAN酸素インストラクターの資格を持つ者。

必要な書類

再発症できる供給できるよう、酸素および酸素供給器材を用意すること。

ダイビング活動 復帰プログラム申込書

記入日 年 月 日

1 フリガナ
参加者氏名 _____
生年月日 年 月 日生:性別 男-女
住所 〒 _____
電話番号 _____
緊急連絡先 連絡者氏名 _____ 電話番号 _____
認定カード 発行団体 _____ 認定番号 _____
DAN JAPAN 会員番号 _____

2 参加申し込みコース:担当医の許可を受けてください。
 復帰プログラム スタンダードコース
 復帰プログラム クイックコース

3 申込書 添付書類
 診断書
 ダイビング活動 復帰プログラム 参加者情報
 1年未満の健康診断書 血圧データ他詳細記入済みのもの
 認定カードおよびDAN JAPAN会員カードのコピー

4 参加に当たっての誓約および承諾事項
 4-1 復帰プログラムに参加するに当たり、体調、既往症などを正しく申告いたします。
 4-2 減圧症の再発症の確率が高いことを十分に認識しています。
 4-3 参加する復帰プログラムが、減圧症の再発を100%保証するものではないことを理解しています。
 4-4 復帰プログラム参加に当たり、潜水計画の正しい理解と実施管理者の指示に従うことを誓約いたします。
 4-5 プログラム参加中、あるいは参加後に減圧症を再発した場合、実施管理者の指示に従い、酸素を供給されることを承諾いたします。
 上記の項目に関し、誓約並びに承諾いたします。
 年 月 日 自筆署名: _____

「復帰プログラム参加者が管理すべき注意事項」

- 復帰プログラム参加者だけでなく、一般のレジャーダイバーも参考にしてください。
- ① ②③の項目はレジャーダイビングにおいても守るようしましょう。
 - ① プログラムの実施日が決定したら、最低1週間前からできる限り体調を整えるよう、睡眠時間の確保、食事の摂取に努め、深酒をしないようにすること。
 - ② 前日は6時間以上の睡眠を取ること。推奨7時間以上。6時間未満は不可。
 - ③ 当日は現地までの移動で疲労を感じたら、実施管理者へ正しく申告すること。
 - ④ ダイブプランを正しく理解し、「最大水深・滞底時間」の変更希望があれば申し出ること。最大水深はより浅く、潜水時間はより短く、セーフティストップは規定を遵守する以外の変更は不可。変更した潜水はプログラム途中へ追加するオプションとする。
 - ⑤ プログラムにて実施する全ての潜水は、ダイブテーブルにて、浮上後の体内残留窒素がFを超えないように計画する。
 - ⑥ ダイブプランの変更を希望した場合、実施担当者やダイブテーブルにて計画の確認を行うこと。
 - ⑦ ダイビング終了後の移動は、300mを超えないルートを選択すること。



⑧ 高所を移動する予定がある場合はプログラムの修正が必要。
 ⑧ ダイビング終了後、1週間は飛行機への搭乗をしないよう、留意すること。

DAN JAPAN会員数 (2004.9.30)

一般会員	13,880名
インストラクター会員	3,563名
スポンサー会員	162名
合計	17,605名

DAN酸素供給法有資格者 (2004.9.30)

インストラクタートレーナー	358名
インストラクター	950名
プロバイダー	2,933名